

iPadを使ったクラウド型介護事業者向けソフト「ケア樹」を開発・販売するグッドツリー（仙台市）はこのほど、宮城県や仙台フィンランド健康福祉センター（FWBC）、大学3校の協力の下に進めていた、介護記録電子化実証実験の事業報告を行った。

### グッドツリー

今回、介護施設で行った

にiPadを導入し、これまでの紙に記載する介護記録との比較を行った。

実証実験は、iPadを使い、定員18名・2ユニットのグループホームでは、日中その場で介護記録を電子化するこの有用性や課題、普及可能性を検証。特に、介護日誌などを随時紙に書き添った。さらに、夜勤担当者がまた別の紙に転記するという方法で、

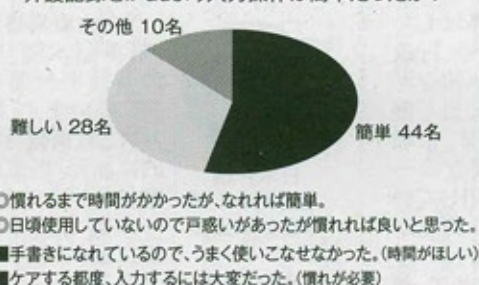


▲FWBCでの事業報告会

これに費やす時間は各ユニットで月間6時間にも及んでいた。これに対し、持ち運びができるタブレット端末を使ってその場で記録ソフトに入力することで、転記に要する時間がなくなり、そのまま印刷も可能になる。入力事

## 実証実験 iPadで介護記録 検証結果聞き取り

アンケート抜粋  
介護記録をiPadより入力操作は簡単だったか？



項は自動でデータ化され、クラウド上に保管される。実証実験に参加した介護スタッフへのアンケートでは、「どこにいても作業ができる」「それぞれのカルテを見なくても入居者の状態をすぐに把握でき、情報を共有化できる」「申し送り漏れがなくなる」といった好意的な声が多かった。一方で、普段からスマートフォンやタブレットを利用していない人からは「慣れるまでに時間がかかるといった声もあり、導入初期段階では多少の負担がかかると思われる記述も見られた。」

グッドツリーの長島徳雄部長は「実証実験と異なる記入と併用になったため負担が大きかった。タブレットに一本化できれば大幅な負担の軽減になると期待を寄せる。」

FWBCの安彦滋夫ディレクターは「IT化を進め『先進的な職場』として求職者にPRすることで、人材確保の優位性を確保できると話した。」

実証実験に協力した  
聖和学園短期大学  
東海林初枝准教授

転記など無駄な時間を省け、その場に必要な情報を確認できれば意思決定も速くなる。情報共有はチームケアに欠かせない要素の一つであり、ケアの質を担保する基盤。そういった意味でもITの活用は大いに期待できる。タッチパネル端末ならカメラやテレビ電話など映像で記録できる点も有効と言える。

今後は介護記録が主目的ではなく、日々の記録を蓄積しケアの向上に役立てる視点が欲しい。また、地域包括ケアに向けては法人を跨いだ情報共有も必要となる。将来的には外国人スタッフの増加が予想されるが、記録作業の負担軽減、またコミュニケーションツールとしても活用できるだろう。